



SII

学校だより

小豆沢学区のエリア《志村二小・志村四小・志村二中》



校訓：まじめ

令和7年5月12日

校長 山口 敦

No. 3

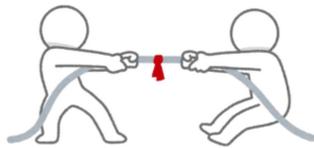
「なぜ運動会をするのか」

校長 山口 敦

ゴールデンウィークもあっという間に終わり、5月31日（土）に行われる運動会へ向けて練習や係会などが本格的に始まりました。短い準備期間のなかで、運動会実行委員を中心として、運動会を形にしていきます。今年度の運動会のスローガンは、「限界突破(Limit Break)～魅せろ！志二中魂～」です。スローガンの通り、限界突破を目指して、楽しむことのできる運動会になることを期待しています。そのために、心がけてほしいことが2つあります。1つ目は、全力でベストを尽くすこと。

人間は集団になると1人で作業するときよりも、1人当たりの作業効率はかえって低下するということが起きるそうです。およそ100年前、フランスのリングマンという学者が綱引きを使った実験を行いました。綱引きをさせて、一人当たりどの程度の力を出しているかを計測したものです。その実験によると、一人で綱を引いたときの力を100%とすると、二人で綱を引いたときの一人当たりの力は93%に減少し、さらに三人で引いたときは、85%、8人では49%に減少したということです。

集団で作業を行う場合、メンバーの人数が増えれば増えるほど、一人当たりの貢献度が低下する、という現象が確認されました。つまり、人数が増えれば増えるほど、心の中に「他の人が頑張るから、自分は力を抜いて大丈夫だろう」という気持ちが無意識のうちに働いていたということです。このような現象を「リングマン効果」、あるいは「社会的手抜き」と呼んでいます。



それでは、リングマン効果を回避し、集団の中で、自分が最大限の力を発揮するためには、どうすれば良いのでしょうか。

クラスに当てはめれば、クラスみんなが、その人に応じた役割分担をし、みんなで声をかけ合って、誰もがクラスのメンバーを応援するという雰囲気を作り出すことが大切です。そういう雰囲気があれば、やらされるのではなく、「自分がやらなければ」と一人一人の考え方が変わっていきます。どんな時でも一人一人が100%の力を出せることが、本当のチームワークだと思います。

2つ目は、思いやりのある声かけをすることです。ある中学生が書いた作文を紹介します。

『運動会で色々なことを経験しました。私は集団行動が苦手でした。皆に合わせないといけなし疲れるからです。しかし、運動会練習をしている間に考え方が変わりました。暑い外での練習で休憩している時、友人に「みんなで力を合わせて上手くいくと楽しいね」と言われました。私は「そうだね」と無意識に笑顔で言い返しました。そこで私は今すごく楽しんでいるという事実気付いて驚きました。集団行動でこんなに楽しいと思ったのは久々でした。運動会当日、緊張していると「みんながいるから大丈夫だよ」と友人は言いました。そのおかげで少し気持ちが楽になりました。

いよいよリレーが始まって、どんどん自分の出番が近づいてきた時、緊張のあまり私は「ここから消えたい」と思ってしまいました。すると友人は「あなたならいける」と支えてくれました。その言葉で頑張ろうという気持ちになりました。

私のクラスの順位は3位でした。でも結果よりも大切な思いを手に入れることができました。それは勇気と思いやりです。これから生きていく中で、今回の支えとなってくれた友人のように私も人と接したり、勇気を持って色々なことに挑戦したりしたいと思います。』

言葉はとても大きな力を持っています。同じ言葉であってもその言葉を使う場面や言い方によって、また、聞き手の受け取り方によって、全く違う力を持つこととなります。何気ない一言で喜んだり、悲しんだりするものです。小さな優しい言葉は、人に笑顔を与えます。心配りや心配りが人の気持ちを通じさせます。

先ほどのリングマン効果を打ち破る方法がもう一つあります。テレビ番組で綱引きの実験を行った際、「頑張る～」と応援する人を投入したら、その力は一人の時と同じ力を発揮したそうです。なお、異性からの応援が、特に効果が高かったそうです。運動会、またその練習でも、応援の声が出てくるといいですね。

最後に、運動会の意義って何でしょうか。運動が得意な人が活躍するだけで、苦手な自分は参加したくないと思っている人もいるかもしれません。先生方は先生方の立場で行事の意義を考え計画、運営します。勉強が得意な人もいれば、芸術、または運動が得意な人もいます。芸術に関する行事もあれば、スポーツに関する行事もあります。参加するレベルも楽しみ方も多種多様です。同じ大会であっても、人によって意義や目的は変わってくるでしょう。

生徒一人一人が、運動会について主体的に考え、仲間と協働して行動し、様々な問題を解決しながら、志村二中の全ての生徒が「やって良かった」と思える運動会、自分が感動できる、そして一緒にいる友達が感動し、家族や地域の方々を感動させる運動会にしましょう。

開校記念日



▲昭和26年当時の教室

昭和22年5月1日、東京光学機械株式会社所有の校地校舎を借用して開校した。生徒は504名を収容し、根本 匡 先生を初代校長として、14名の教職員をもって5月5日から授業を開始した。〔開校30周年記念誌から〕

一、紫匂う武蔵野の
志村が在の朝夕に
富士の高嶺を仰ぎつゝ
文化の道を我等行く
志村二中よ栄えあれ

二、永久に尽させぬ荒川の
清き流れに育くまぬ
希望に眠る学舎に
真理の道を慕い行く
志村二中よ栄えあれ

三、緑したる、常盤木の
学びの庭に咲き出でし
千穂の花に清純の
香りも深き我が誇り
志村二中よ栄えあれ

校歌

↑開校当時の校歌。現在の校歌は、昭和30年1月13日に制定されました。

生徒会委員会 任命式



4月21日（月）生徒会委員会任命式が行われました。各委員会の委員長が代表として校長先生より任命証を授与されました。年間を通して、専門委員会が活躍する場面が多くあります。大変な時もあると思いますが、委員会の生徒だけでなく他の生徒達や生徒会役員とともに、全員が一丸となって志村二中を盛り上げていけるように頑張ってもらいたいと思います。

離任式



4月28日（月）6時間目に離任式を行いました。3月まで志村第二中学校で勤務されていた先生方をお迎えしました。代表生徒による感謝の言葉や「青春の1ページ」のプレゼントなどを披露し、感謝の気持ちを十分に伝えることができ、心あたたまる式となりました。最後にいただいたお別れのことば、大切に心にしまっておきましょう。

8年職業講話

5月1日（木）働くことについてハローワーク池袋の方に講師としてご来校いただき、職業講話を実施しました。自分をよく知ること、何のために働くのか、どんな働き方があるのか、なりたい自分になれるかなど、自己理解を深める時間となりました。働くことの意義や会社が重要視するポイント、中学生の今、取り組んでほしいことなどについて詳しくお話いただきました。9月の職場体験に向けて、また、将来のことを考えていく上で、大変貴重な機会となりました。



働くことについてハローワーク池袋の方に講師としてご来校いただき、職業講話を実施しました。自分をよく知ること、何のために働くのか、どんな働き方があるのか、なりたい自分になれるかなど、自己理解を深める時間となりました。働くことの意義や会社が重要視するポイント、中学生の今、取り組んでほしいことなどについて詳しくお話いただきました。9月の職場体験に向けて、また、将来のことを考えていく上で、大変貴重な機会となりました。

【5月の主な予定】

5月	12	月	朝礼
	13	火	中間考査(8)(9)／専門委員会
	14	水	内科検診(8)(9)
	19	月	生徒朝礼／教育実習始
	21	水	内科検診(7)(9)／避難訓練
	23	金	英検
	26	月	コミュニティ・スクール委員会
6月	28	水	運動会予行
	30	金	運動会準備
	31	土	運動会
	2	月	振替休業日

